

早稲田大学 商学部 政治・経済 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問4問中、政治・憲法分野からの出題が1問。経済分野からの出題が3問。適語補充や正誤選択問題が多く、論述問題は25字程度のものが1問。難易度は昨年に比べ易化。 のリード文は「経済白書」、 のリード文は「労働経済白書」よりそれぞれ作成されている。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	国連憲章と自衛権 平和主義	問1の空欄F・G・Hは文脈に注意して解くこと。問2の(7)は2008年6月4日の最高裁の国籍法違憲判決。問3(b)の(オ)の選択肢は日中共同声明か？	標準
	日本経済の諸問題 国際貿易	問1のサブプライムローン問題、問4のWTOに関する問題、いずれも基礎知識があれば大丈夫。問5の記述問題も字数も少なく解答しやすい。	易
	環境問題 市場機構	問1は排出権取引に関する問題。文章を丁寧に読むこと。問2・問3の市場機構に関する問題は易しい。問8は横浜で開催されたアフリカ開発会議(TICAD)。	標準
	産業構造の変化 労働問題	問1は前後の文脈に注意。問2の適語補充問題はやや難しい。問3は多少わからない語句があっても類推して解ける。	標準

〔総合コメント〕

教科書・資料集・用語集の範囲内から難易度・内容ともにバランスよく出題されている(受験レベルを超え受験対策を講じにくい高度で専門的な問題はほとんどない)。時事問題については新聞記事などに日頃から注意しておくこと。
